

河川管理施設の老朽化対策【国土交通省】

施策概要 老朽化した河川管理施設において、ライフサイクルコストの縮減等につながる取組を推進するための修繕・更新を実施

効果 老朽化対策により、洪水等の災害が発生した際にも河川管理施設が適切に機能を果たし、浸水被害の防止・軽減が期待

全国的な対策と効果

対策 国管理の河川管理施設(堤防、樋門・樋管、水門、排水機場等)での老朽化対策を集中的に実施

【堤防護岸の修繕】

雨水・流水等により堤防護岸に生じた変状について、進行性があるものに対して盛土復旧等を実施



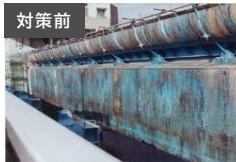
雨水により侵食した堤防法面



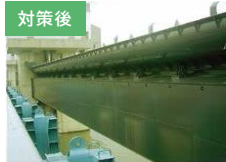
堤防法面の補修

【堰ゲートの修繕・更新】

流水・風浪等により発生した堰ゲートの腐食等の劣化について、進行性があるものに対してゲートの塗替や更新等を実施



腐食が進行した堰ゲート



ゲート塗装の塗り替え

【5か年加速化対策による老朽化対策の実施状況】

河川管理施設	令和2年度時点	令和7年度末	
	対策が必要な数量	対策が必要な数量	対策済み施設数
堤防(護岸含む)	3,560km	351km	3,209km
河川構造物(樋門・樋管、水門、排水機場)	1,964施設	279施設	1,685施設

5か年加速化対策の効果

近年、時間雨量50mmを上回る短時間降雨の発生件数が増加している中、洪水による被害防止・軽減のため、河川管理施設が適切に機能を発揮。

直近の大雨と過去に大規模な浸水被害をもたらした同規模の降雨による浸水戸数の比較

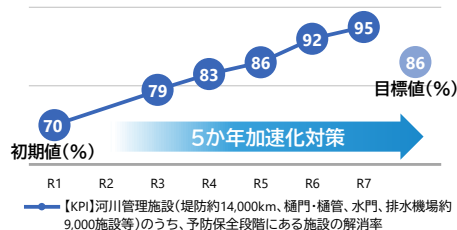
①	庄内川水系土岐川	【H23.9洪水】	622戸	➡	【R5.6大雨】	2戸	(約 99%減)
②	大和川水系大和川	【H29.10洪水】	258戸	➡	【R5.6大雨】	43戸	(約 83%減)
③	紀の川水系和田川	【H24.6洪水】	116戸	➡	【R5.6大雨】	0戸	(約 100%減)

予算額(国費)(加速化・深化分)

R3	R4	R5
324億円	204億円	248億円
R6	R7	累計
315億円	259億円	1,351億円

※ このほか、加速化・深化分以外の予算も措置されている

目標達成の見通し



効果発揮事例

老朽化した排水機場を修繕し、地域の浸水被害を軽減する



国土交通省 北陸地方整備局
金沢河川国道事務所



石川県小松市



梯川河川維持修繕事業

令和4年8月大雨時の前川排水機場



事業費

1.9億円 (うち5か年加速化対策(加速化・深化分)1.9億円)

事業の背景(地域の課題)

梯川および前川流域は、山間部と海岸砂丘に囲まれた低平地が広がっており、ひとたび氾濫が発生すると湛水が長期化しやすい地形となっています。
梯川逆水門と前川排水機場は、両施設が協力し合うことで、前川および木場湯において、平常時は塩水遡上防止やかんがい取水、洪水時は逆流防止やポンプ排水による水位上昇軽減の役割を果たしています。

事業の内容

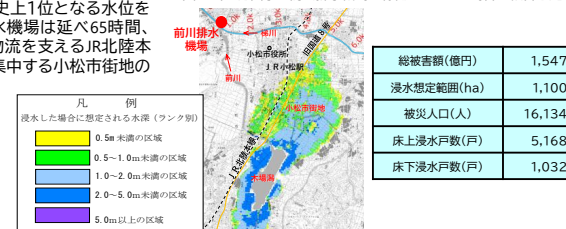
頻発する出水により稼働時間が多く、年点検において確認された原動機内部の損傷について分解整備による修繕を実施し、排水機場の機能を確保しました。



効果

令和4年8月には梯川で、観測史上1位となる水位を観測する出水となり、前川排水機場は延べ65時間、約1,100万³mの排水を行い、物流を支えるJR北陸本線や旧国道8号、人口・資産が集中する小松市街地の浸水被害を軽減しました。

<令和4年8月出水で前川排水機場が稼働しなかった場合の被害想定>



(1) 人命・財産の被害最小化

1 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策

(2) 交通・ライフラインの維持

2 インフラの老朽化対策

(1) 3 国土強靱化に関する施策を効果的に進めるためのデジタル化等の推進

(1) 3 施策のデジタル化

(2) 災害関連情報の高度化